

森林の公益的機能を持続的に発揮させるため、手入れがされず放置され、緊急に整備が必要な人工林を間伐

事業名 環境貢献林整備事業

市町名 三次市

取組のきっかけ・経緯

・手入れがされず放置され、緊急に整備が必要な人工林について、管内森林組合に調査を委託し、調査結果に基づき、事業地を取りまとめ、事業をおこなった。

今後の展開

・森林所有者の中に、事業について把握されていない方や不在所有者が多く、事業の取りまとめに時間を要していることから、今後も市広報誌等を活用し、広く周知していく。

取組の内容

- ・事業主体: 三次市
- ・実施場所: 三次市内
- ・事業主体: 三次地方森林組合
甲奴郡森林組合
- ・業務量: 人工林健全化 73.90ha
- ・業務金額: 35,810,000円
- ・業務期間: 令和6年9月29日
～令和7年3月31日

取組後の感想

【良かった点】

・間伐を行ったことで、林内の下層植生が回復し、水源涵養や土砂流出防止等、公益的機能の発揮が期待できる。

【悪かった点】

・事業について、把握されていない方や不在所有者が多く、事業地の取りまとめに時間を要した。

【整備前】



【整備後】



放置竹林の整備促進に向けた講習会の開催

事業名 里山保全活動支援事業

市町名 三次市

取組のきっかけ・経緯

- ・放置竹林は、年々拡大し、土砂災害の危険性が増すとともに、野生鳥獣の棲み処となって農作物の被害が拡大する等、様々な問題が発生している。
- ・そこで、市民による竹林整備を進めるために、短期間に大量の竹炭づくりが可能な無煙炭化器を導入し、市民を対象とした竹林整備講習会を開催した。

取組の内容

- ・事業主体:みよしの森づくり協議会
- ・実施場所:三次市内
- ・業務委託先:三次市森林・林業研究会
- ・業務金額(事業費総額):

無煙炭化器(本体1・蓋1)	161,040円
竹林整備講習会	55,693円
合計	216,733円
- ・業務(実施)期間:
令和6年10月1日～令和7年2月28日
竹林整備講習会:令和7年2月9日

【講習会の様子】



今後の展開

- ・市民参加の竹林整備を進めるため、次年度についても講習会の開催を計画する。
- ・導入した無煙炭化器の利活用についてPRし、資源としての有効活用を進める。

取組後の感想

【良かった点】

- ・定員30名で、竹林整備講習会の参加募集を行ったところ、募集開始から20日程度で定員に達した。参加できなかった方からは、次年度の開催要望があった。
- ・講習会では、室内で、竹の生態・整備方法等についての説明の後、野外で、無煙炭化器の特性や使用方法等について説明を受けた。
- ・室内・野外での説明は大変好評で、「地域ですぐに実践したい」、「竹のチップ化等利活用方法をテーマにした講習会を開催して欲しい」等の積極的な意見が出た。

【悪かった点】

- ・講習会当日に積雪があったため、竹林の生態や伐採方法等の野外研修が出来なかった。

【竹炭作りの講習会】



数百年の歴史を有する地域資源の保全と利用促進を目的に整備 事業名 特認事業(畠敷町岩屋寺地区・地域資源保全活用事業) 市町名 三次市

取組のきっかけ・経緯

- ・当地区の地域資源である「岩屋寺」は、西暦700年代に行基が岩屋に菩薩像を彫って信仰したのが始まりとされる歴史遺産であるとともに、豊かな森林と多くの山野草などに囲まれ、幅広い年齢層に親しまれている。
- ・地元ボランティアにより、登山道整備等の環境整備を実施してきたが、激甚化する近年の豪雨により、登山道が侵食されるとともに、樹木が繁茂し、頂上からの眺望も悪化している。
- ・そこで、当事業を活用して、3年計画で、頂上・登山道周辺の森林整備及び登山道の補修を行い、令和6年度は、2年目の事業を実施した。

取組の内容

- ・事業主体: 八次地区自治連合会
- ・実施場所: 三次市畠敷町岩屋寺地区
- ・業務委託先: 株式会社エーグロー
三次地方森林組合
- ・業務量: 森林整備(眺望確保等): 0.1ha
登山道整備: 785m
(石橋架替え、登山道補修河床補修)
- ・業務金額: 4,000,000円
- ・業務(実施)期間: 令和6年8月6日
～令和7年1月24日

【整備後】



今後の展開

- ・頂上付近の森林を整備して眺望を確保するとともに、登山道周辺の危険木等の伐採、及び石橋の補修を行い、安全に歴史や自然を楽しめるよう環境整備を行う。
- ・数百年の長きにわたり伝えられてきた地域の歴史と文化を次世代に継承していくため、整備後も地元ボランティアによる環境整備活動を継続する。

取組後の感想

【良かった点】

- ・豪雨により崩壊していた登山道の路面、河床及び石垣の補修の外、川底の崩壊石を撤去したことで、登山道の安全性・耐久性を確保することができた。
- ・頂上付近の森林整備を実施したことで、頂上からの市街地を望む眺望を確保することができた。

【悪かった点】

- ・予算上、登山道周辺の危険木伐採や石橋の補修を一部行うことができなかった。

【整備後】



オートキャンプ場としてリニューアルオープンしたハイヅカ湖畔の森を地域資源としての活用を目的に整備

事業名 特認事業(三良坂町灰塚地区・地域資源保全活用事業)
市町名 三次市

取組のきっかけ・経緯

- ・ハイヅカ湖畔の森は、令和4年4月にオートキャンプ場として、リニューアルオープンしたが、湖面を遮るように立木が繁茂して景観が悪化しているほか、遊歩道の階段や防護柵が老朽化している。
- ・そこで、本事業を活用し、3年計画で、ハイヅカ湖の魅力を高めるための環境改善を行う。
- ・令和5年度は、オートキャンプ場からの眺望を確保するための森林整備を行い、景観の改善を図った。
- ・令和6年度は、オートキャンプ場周辺の安全を確保するため、危険木の伐採を行った。

取組の内容

- ・事業主体: ハイヅカ湖周辺活用検討委員会
- ・実施場所: 三次市三良坂町灰塚地区
- ・業務委託先: 三次地方森林組合
- ・業務金額: 4,000,000円
- ・業務(実施)期間: 令和6年8月7日
～令和7年3月25日

【整備後】



今後の展開

- ・老朽化した遊歩道の階段・防護柵及び展望台の階段の補修を行うとともに、標識類の整備を行い、ハイヅカ湖畔の森の魅力の向上をめざす。
- ・森に親しむイベントを開催するなど、ハイヅカ湖畔の森の更なる活用を図る。

取組後の感想

【良かった点】

- ・オートキャンプ場及び遊歩道周辺の危険木の伐採を行ったことにより、湖面の眺望を確保するとともに、キャンプ場周辺の景観と安全を確保することができた。

【悪かった点】

- ・予算上、遊歩道の整備や展望台の補修等ができなかったため、次年度に実施する。

【整備後】



農作物への獣害被害の減少にむけた

バッファゾーン整備

事業名 特認事業(里山林課題解決推進事業)

市町名 三次市

取組のきっかけ・経緯

- ・当地区では、イノシシ等による農作物への被害を防止するため、地域ぐるみで防護柵の設置等に取り組んでいるが、被害の拡大が止まらない状況にある。
- ・農地と隣接する森林沿いに設置している防護柵が機能していないことが、被害が止まらない原因の一つと考えられる。
- ・そのため、本事業を活用し、下層植生の刈払い等の防護柵の機能確保や管理作業の軽減を目的に、3年計画で、防護柵沿いの森林整備を実施する。

取組の内容

- ・事業主体:海渡町鳥獣被害対策検討部会
- ・実施場所:三次市君田町海渡地区
- ・業務委託先:三次地方森林組合
- ・業務(実施)量:0.65ha
(道路沿いに 650m×幅10m)
- ・業務金額:6,400,000円
- ・業務(実施)期間:令和6年8月
~令和7年1月

【整備後】



今後の展開

- ・イノシシ等の獣害被害を軽減するためには、地域ぐるみの管理体制の確保が重要である。
- ・今回は、防護柵沿いに10m幅で帯状にバッファゾーンを整備したが、他の実施事例とも比較し、効果的な整備方法について検討する必要がある。

取組後の感想

【良かった点】

- ・本事業を取組むに当たり、地域の関係者による検討部会を設置し、課題の共有化や事業実施後の管理の重要性等について、意思統一を図ることができた。

【悪かった点】

- ・防護柵は林道沿いに設置されているため、伐採木を現地から除去する必要が生じたため、事業費が割高となった。

【整備後】



農作物への獣害被害の減少にむけた バッファゾーン整備

事業名 特認事業(里山林課題解決推進事業)

市町名 三次市

取組のきっかけ・経緯

- ・当地区では、イノシシ等による農作物への被害を防止するため、地域ぐるみで防護柵の設置やICTを活用した捕獲事業に取り組んでいるが、被害の拡大が止まらない状況にある。
- ・農地と隣接する森林が、イノシシ等の棲み処になっていることが、原因の一つと考えられる。
- ・そのため、本事業を活用し、被害が顕著な地域を中心に、3年計画で、林縁を带状にバッファゾーンを整備して、農地への侵入防止を図ることで、被害の減少を図る。

取組の内容

- ・事業主体:石原鳥獣被害対策検討部会
- ・実施場所:三次市君田町石原地区
- ・業務委託先:三次地方森林組合
- ・業務(実施)量:0.28ha
(道路沿いに:280m×幅10m)
- ・業務金額:8,000,000円
- ・業務(実施)期間:令和6年9月~11月

【防護柵の設置作業】



今後の展開

- ・イノシシ等の獣害被害を軽減するためには、地域ぐるみの管理体制の確保が重要である。
- ・今回は、道路沿いに10m幅で带状にバッファゾーンを整備したが、他の実施事例とも比較し、効果的な整備方法について検討する必要がある。

取組後の感想

【良かった点】

- ・本事業を取組むに当たり、地域の関係者による検討部会を設置し、課題の共有化や事業実施後の管理の重要性等について意思統一を行うことができた。
- ・センサーカメラの利用により、イノシシ等の出没状況の確認を行うことで、効果を増すための防護柵との併用場所の選定等が可能となった。

【悪かった点】

- ・道路沿いの傾斜地の伐採のため、事業費が割高となった。ただし、伐採木の一部は、ストーブや炭焼用の薪として地元で利用した。

【整備後】

